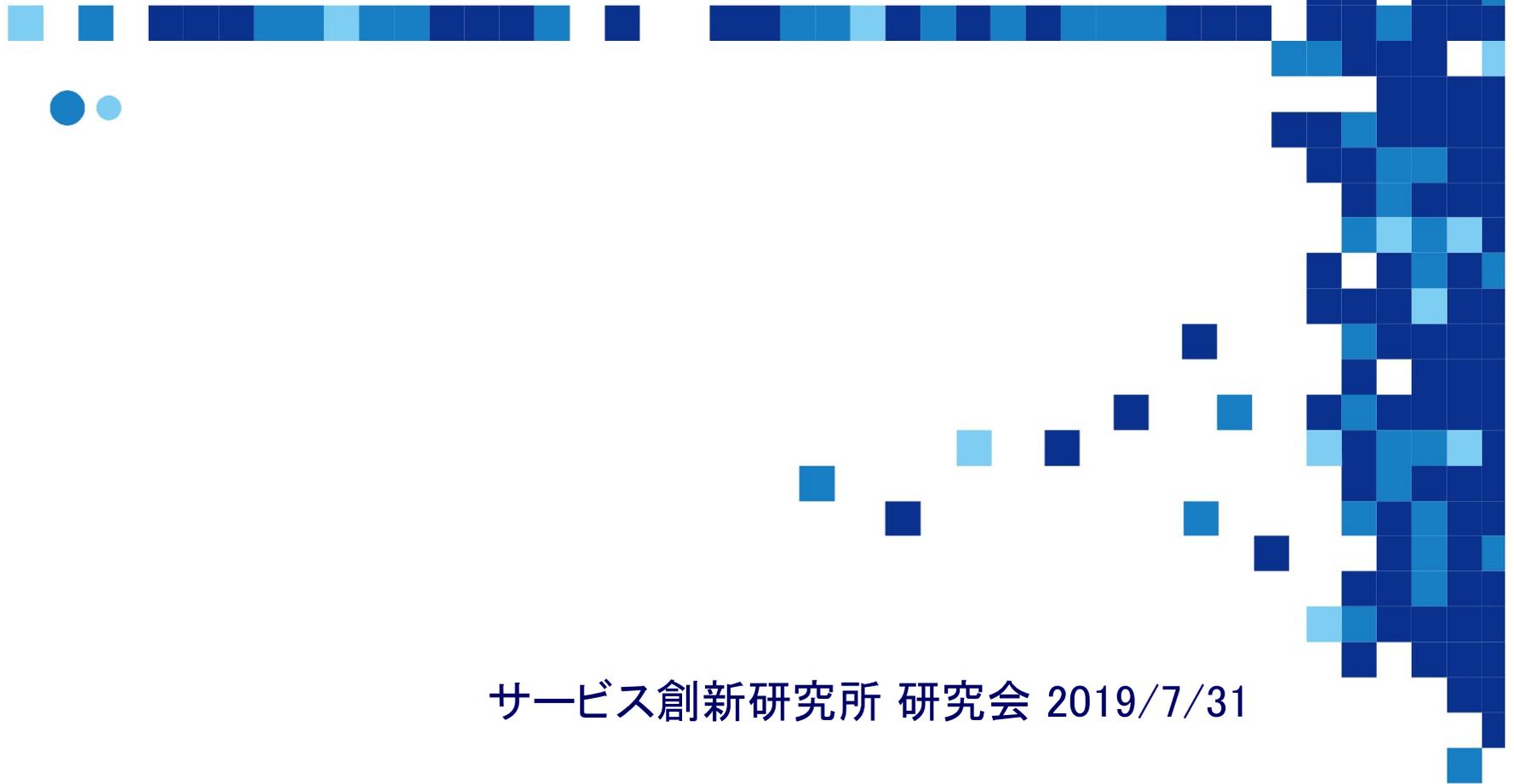


ホフステーデの

「個人主義指標」



ホフステーデの研究

Geert Hofstede (1980) “ *Culture's Consequences* ”

職業態度調査 (職業に関連する価値観の国際比較)

調査時期 : 1960年代の終わり ~ 1970年代の初め

調査対象 : 66カ国のIBM従業員約8万8千人

(集団主義・個人主義についてはその一部)

調査方法 : 14項目から成る質問紙調査

(全調査項目の一部)

ホフステーデの研究：結果

質問紙への回答

- ⇒ 因子分析
- ⇒ 2つの因子
- ⇒ うち1つを「個人主義因子」と命名
- ⇒ 「個人主義指標」を作成
- ⇒ 国の順位づけ

順位 国 個人主義
スコア

1	アメリカ	91
2	豪州	90
3	イギリス	89
4/5	カナダ	80
4/5	オランダ	80
・		
・		
10/11	フランス	71
・		
・		

21	インド	48
22	日本	46
・		
43	韓国	18
・		
・		
52	エクアドル	8
53	グアテマラ	6

ホフステーデの研究の影響

「個人主義インデックス」にもとづく国の序列

：常識に一致

〔 アメリカ > 日本
西欧 > アジア

⇒ 広く受容

⇒ 多くの後続研究

「グローバル企業は

文化の違いに配慮した経営が必要」

「ホフステード・インサイト」

謳い文句

ホフステード・インサイト・ジャパン(HIJ)は、フィンランドに本社を置く Hofstede Insights Group の一員です。

グローバル40か国に散らばる100名のネットワークの一員として、
世界各地の知見を元に、文化を切り口として日本企業を支援します。

ホフステーデの研究の問題点

「個人主義因子」 ≠ 個人主義の程度

因子の意味



(推定)

因子負荷量の大きい質問項目の内容

個人主義 集団主義

◆ 個人主義

: 集団より個人を優先
独立独歩

◆ 集団主義

: 個人より集団を優先
同調・協力

マイナスに負荷する項目（集団主義）

- .82 「技能を向上させたり，新しい技能を修得するための訓練の機会があること」
- .69 「良い物理的な労働条件（良い換気，照明，適切な作業空間など）が備わっていること」
- .63 「仕事で自分の技能や能力を十分に活用すること」

質問：「貴方の理想とする仕事にとって重要な条件は？」

プラスに負荷する項目（個人主義）

- .86 「貴方の個人的な、あるいは家族の生活に十分な時間を残してくれるような仕事を持つこと」
- .49 「仕事において自分自身のやり方を選ぶかなりの自由があること」
- .46 「挑戦的な仕事、即ち、個人的な達成感が得られるような仕事を持つこと」

質問：「貴方の理想とする仕事にとって重要な条件は？」

質問項目の実際の内容

Hofstede: 「個人的な」 ⇒ 個人主義
⇔ 「家族の生活」

.86 「貴方の個人的な, あるいは家族の生活に十分な時間を残してくれるような仕事を持つこと」

質問項目の実際の内容

Hofstede: 「個人的な」 ⇒ 個人主義
⇔ 「家族の生活」

負荷量の大きい項目の内容

— 集団主義・個人主義とは無関係

「良い換気、照明、適切な作業空間」

「新しい技能を修得するための訓練の機会」

— 集団主義？

通説の支持者の意見

「良い物理的な労働条件や訓練の機会を望むことが、どのように人を集団主義的にするのだろうか？

自分の技能を十分に発揮できることが、なぜ個人主義的でないことにつながるのだろうか？」

(Heine, S. J., Lehman, D. R., Peng, K., & Greenholtz, J. 2002)

「個人主義因子」の本当の内容

× 「個人主義 vs. 集団主義」

因子の本当の意味

(+) 「仕事に対する高度な要求」



ex. 「個人・家族に十分な時間が残る」

「挑戦的で個人的な達成感がある」

(-) 「仕事に対する基本的な要求」

ex. 「技能向上・習得の機会がある」

「換気・照明がよい」

〔 Cf. 質問 : 「あなたの理想とする仕事にとって重要な条件は何でしょうか？」 〕

日米比較研究

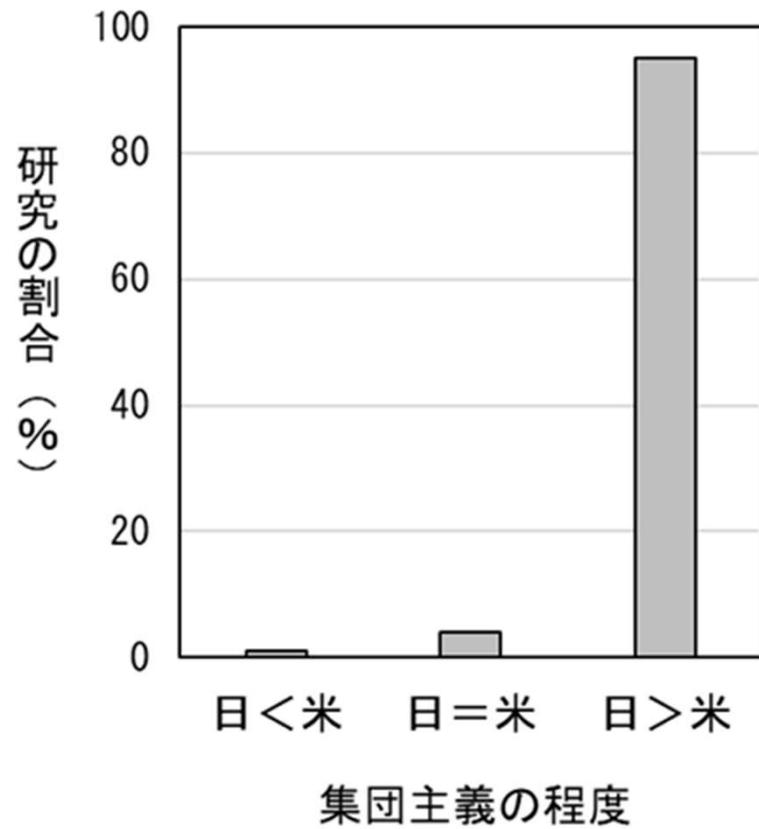
集団主義・個人主義に関する実証的研究

- 実験研究 12件
- 調査研究 31件

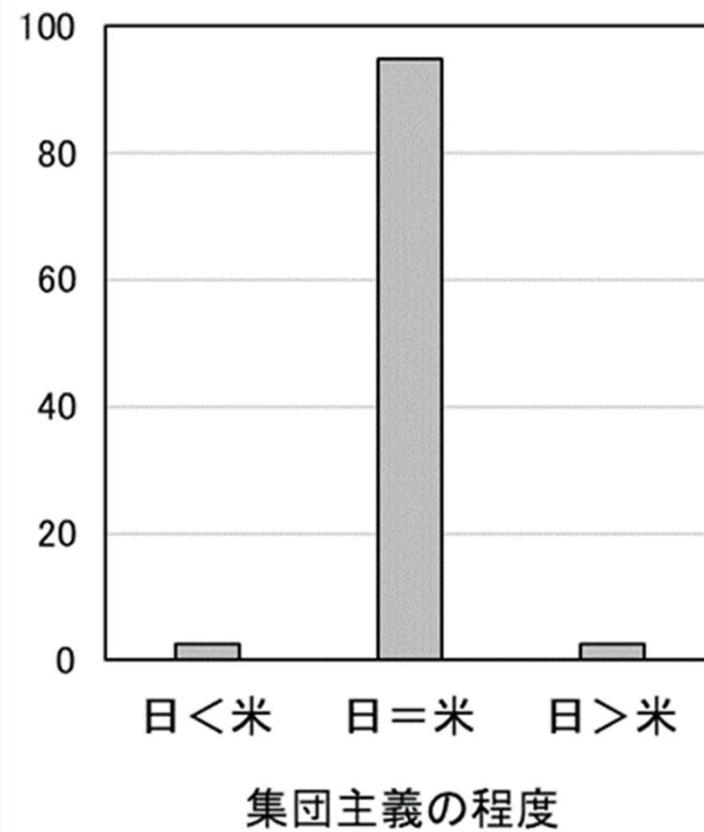
(Takano & Osaka, 2018)

予測される結果 (模式図)

a. 通説の予測

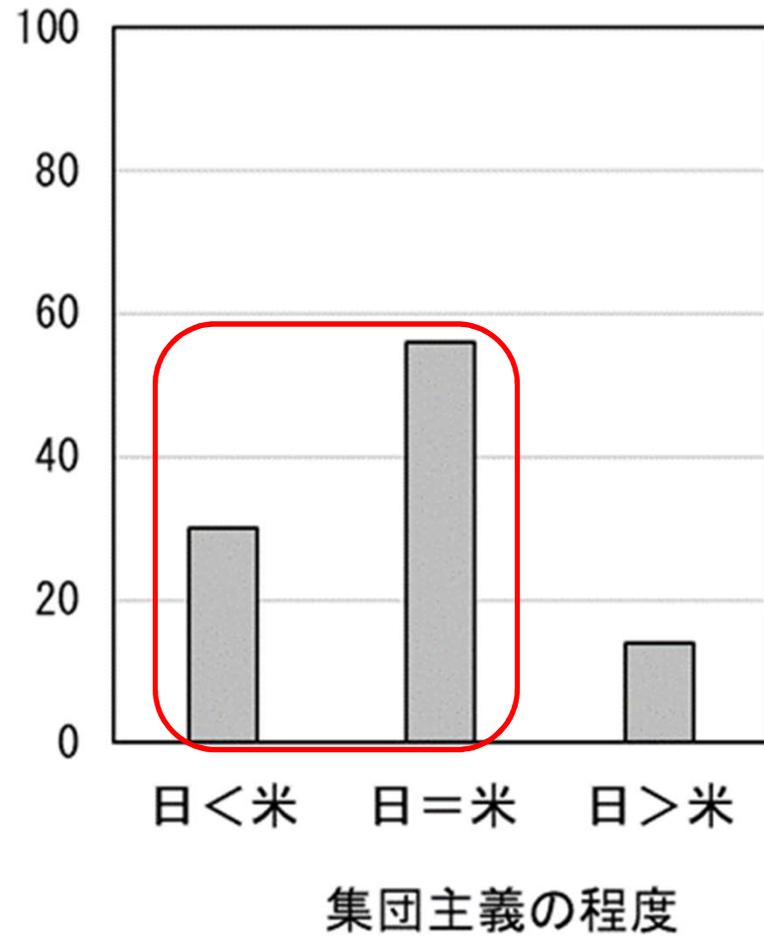


b. 違いがない場合

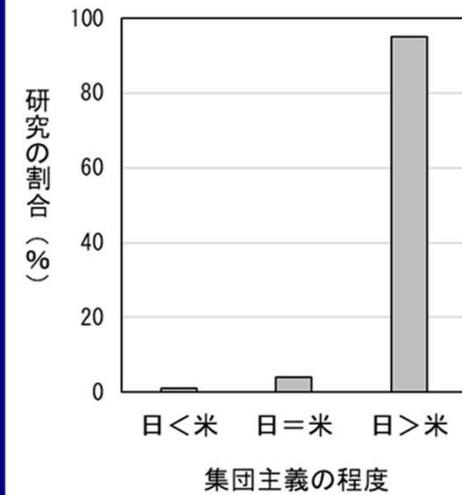


実際の結果

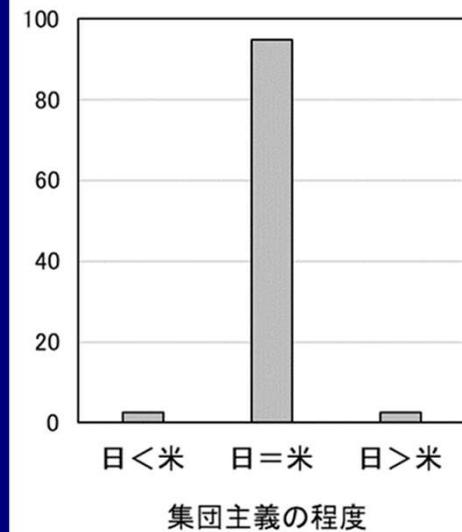
b. 43研究の結果



a. 通説の予測



b. 違いがない場合



結論

- ホフステーデの「個人主義指標」は誤り
- 日本人は特に「集団主義的」ではない
- 文化差への配慮は大切
しかし、誤った「文化差」は有害

『「集団主義」という錯覚』（新曜社 2008年）

『日本人論の危険なあやまち』

（ディスカヴァー21 10月刊行予定）

